新肉叢

御詠子色紙和歌

へ4
3482

3482

六月廿五日　毎清源殿小御所ノ
障子ノ色帝ノ御
大嘗祭ハ悠紀方人ノ
奏ノ色ハ黒ク
ナリ　ト　数ノ
ナリ　ト　ナリ
ナリ　ト　ナリ
ナリ　ト　ナリ
ナリ　ト　ナリ
ナリ　ト　ナリ

此留志梅乃花の咲そむるかの態
源氏秋の風ふきしくなと形よ清き
時にハけむ有さまあるハ名たゝ源氏
乃君をはしも画きて給ひて
大御葉にも花族乃史人ゝ新殿
此ちてことかは歩み遠き源延平ら

此語く時乃世ゝしも傳ふ庵く板有
志利ても見をはしく書をとゝへるに
らく毋思ひおこしたる留やとならに
よ語るハ流ゝ短き筆路ゆえて物
久志ふれふなき森

明治五年乃秋　正二位三條西季知

新内書清涼殿障子和歌

葛城山

[illegible]

烏丸

日野中納言　光政卿

峯高き[illegible]

芦屋里

難波の浦に[illegible]

冷泉

[illegible]　為理卿

難波[illegible]

春日野

大正三年三月十三日
市島謙吉氏贈

人々われてしたかふこころ

鹿島社奉納言　雅久卿

神代よりあるまさきの葉のわかなるは君のちとせをかけてこそしれ

盤瀬杜

下草まさくさくしも出くるかな　有栖川　中務卿宮　職仁親王

下草をこそはうつをまさくさくまさきの葉のかけまいまさきの葉のかけてはうつる雪

玉造川

河水にうつる月の影をみるわ　奉献　関白　政通公

野馬台の山に二月ばかりにまだ雪のつもりたる

音羽山

霞わたるこずえのうぐいすのこゑ

御製

駒ひきるる春の雪のうすきにはいまだ音羽のやまの下草

小塩山

峯の松小松に雪ふりつもるこゑ

御製

小塩山ふるの松ばかりの雪をはらふ手ぶりの袖

曲田池

[illegible]

関白

[illegible]

更科里

[illegible]山の[illegible]

新侍従三位 羅典御

[illegible]

大井川

[illegible]

日野中納言

[illegible]

伊勢海

浦[illegible]

御製

[illegible]

小倉山

[illegible]

中務卿宮

[illegible]

辰市

春のよふかくあけてかへる人の袖にほふ

飛鳥井前大納言

かよふ人のゆきゝしけきふたつの市ところえさきさかゆる代とて

難波江

枯芦のかれはに霜のふるかな

近衛右大臣忠熙公

霧のおくこゝろありてきゝなれし難波江の水も比様に広くかすみあへる

玉川里

河そひの里は垣ねに卯の花咲く

御製

白妙のさらして玉川の里は名のみそ卯の花

浮香深沼

菖蒲ますみきはしくさしてかをりのよこはかりうふ

飛鳥井前大納言

おのつから袖にもかほる沼のあやめの浅沼のかをりなき

松鶯

ましくれてうくひすの声も岡のまつふ

すゝこえ田鶴ならし

三條西

右宰相中将季知卿

おもふくさ須ふりまさり思ひかけの声をきゝかくしかくし

歌見浦

夕波千鳥なく声に月の傾くころの面

飛鳥井雅久卿言

いそのかゝりの浦さびて葦の葉ばかりなる秋の夕べ

右　手杜

納涼

風ふき来る夏の夕べ涼しさは月の影なる石の清水

右衛門督

三梅山

枝のこゑ小風ふくゝ夕立の

右大臣

吉羽山

みるゝ山を吹くゝ雲の行ゆくゝ雨の音ぞ秋

関白

末ゝ乃ゝ吉ゝ乃ゝ山ゝ遠ゝ振ゝ雨ゝ

若浦

夏ゝ衣ゝ乃ゝ袖ゝの実ゝ杉ゝ葉ゝ

中務卿宮

田鶴の浦ゝ波ゝ一ゝ筋ゝ

右大臣

和ゝ乃ゝ浦ゝ八ゝ重ゝ波ゝ

元右

宮城野

[illegible]

右大臣

[illegible]

天橋立

[illegible]

左宰相中将

[illegible]

住吉浦

[illegible]

御製

[illegible]

[illegible]

日野中納言

[illegible]

伏見小田

[illegible]

左宰相中将

[illegible]

笠柄関

岩倉の三ツ屋ヶ下ニハ大ヶ関

新侍従三位

宇治川

[illegible]

飛鳥井宰相納言

[illegible]

嵯峨野

秋萩[illegible]

小倉ヶ[illegible]

右衛門督

[illegible]

[illegible]

新侍従三位ハ家[illegible]

小御所御詠和歌

上段東

元日節會

豐樂院の臺盤に宮人つらなる座上

立樂の舞又さゝ奉祿の事樞密の事

御製

ひかりそふ玉の年のとし見たまふ君がよろこぶ色にぞ

東

雪消の岩ねをとゝし山川の氷とけ行春の波かな

右大臣

春ふかみとけぬ氷をうちなびく玉川の水

東

梅花なかれてこそ春の波

徳大寺大納言　左衛門

西

[illegible]

関白

西

蓮生の[illegible]秋の[illegible]むらの[illegible]風[illegible]

三條

西

権大納言　實萬卿

[illegible]

日野中納言

南

[illegible]

芳野山

[illegible]

御製

北

[illegible]

嵐[illegible]

中務卿宮

北

[illegible]

廣沢池

[illegible]

久我 源大納言 建通卿

[illegible]

北 色こそは松井に宮の[illegible]

[illegible]

龍島井宗大納言

中殿

東 元園

小[illegible]

中務卿宮

[illegible]

東 山科[illegible]

廣幡 源中納言 忠禮卿

[illegible]

東 [illegible]

野宮 宣功朝臣 左近中將

春[illegible]

西 村雨の[illegible]

[illegible]

[illegible]司 内大臣 浦[illegible]公

[illegible]

西

山ゝ井乃ゆき野ゝ新すく

徳大寺大納言

春人もあれすさ野の秋山乃ゆきの末野のゆうつゝ乃すゝ

西

逢坂関

弱也このとゝ

左衛門督

吹くゝ風越むふ例ゝあゝ坂の関路の秋乃名ゝ残ゝ生ゆる

西

勢田川

れゝのゝ井つゝ文ゝ

北

不尽山

雲ゝ

乃雲ゝ

関白

下殿

東

小夢部屋ゝ雲ゝ

内大臣

春ゝの雲ゝ

十

東

野趣をよめる

右大臣相中將

おもひたちぬ世をすてゝ山ぶかくいりぬるかたの

東　あくがれ蓬の花咲こゝろ

藤谷

爲兄朝臣　右近少將

さらでだに袖もゆるがぬ涙かな

東　天河白くみなくも上弦月中の兎く

源大納言

ながきよの月もかたぶくこゝろ哉

西　萩をゝ手ゝ穂のをををれ

秋の色は西　野辺の淺茅荻萱

烏丸

光德　散位

あさぢふの南　野辺の秋の色

野宮前大納言　定祥卿

秋の色は西　雲の下に我は明てこゝろやまおもかな紀氏

南　野外業をする物不百合　坊城

右大辯宰相　俊克卿

東　親町三條

三條中納言　實愛卿

[illegible]

南 [illegible]

[illegible]

新侍従三位

[illegible]

北 四上川

[illegible]

右衛門督

[illegible]

東廂 上 小朝拝

清涼殿[illegible]

関白

[illegible]

上 栗津原

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上 [illegible]

橋本 賀茂朝臣 右近中将

[illegible]

中 水青む沢にてさきを弱めるふ

三條中納言

和の字もやうやうさきゆく水のいろく沢辺のこずえもさやかにうん

中 山ごの花をるひをるところ

新侍従三位

ひかりふ岩のうらひわたるやせゝしつるまろ使ところもろ

中 あきをかの山ほゝ雲をうて秋の月ぬれわ

梅渓 通善朝臣 右近少將

鶯春の月ものこりてやまろうら春ぬるゝ雲やわらぐ

下 曲水宴

十三

かすれ乃ふ宮人かゝわく笹ところ

ぬるゝ小屋のうめふところ

野宮最大納言

さつき雨ふりてゆく山ものかすれふるゝ月のよ

下 嵐山

大井川筏の上ゝ笹ちわふ

日野中納言

大和河原沢いろ月代ゝ手ゝ乃ふ乃ゝ花ゝ八極ゝ手ゝふわ

下 法蓮引小田沢乃ゝ花ゝ極ゝ志つの移おろ

右衛門督

[illegible]

西廂

下 乞巧奠

[illegible]

中務卿宮

[illegible]

下 萩原巧風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

下 関幡山

夕雲[illegible]

高松 保實朝臣 大膳權大夫

[illegible]

中 早田乃稲花[illegible]

右大臣

中 出[illegible]

御製

[illegible]

中

須磨浦

[illegible]

有栖川 師宮 織仁親王

[illegible]

上 猪名野

源宰[illegible]のもと

[illegible]

上 菊のもれもとうちなり

右宰相中將

十五

[illegible]

上 [illegible]乃[illegible]乃[illegible]

久世三位 通[illegible]卿

[illegible]

南廂

神山

榊[illegible]

[illegible]

真榊乃[illegible]神山[illegible]

[illegible]

[illegible]

吹きてる風の山路もたのしかるべし

松陰より人馬も遥に見おろされて香炉峰の旬の人

日野中納言

夏衣ぬぎかへてまつ夕べ

北廂

右宰相中将

十月更衣

掃部寮冬の御装束の奏上ありて

冬きぬぬいで形乃外のちよはけて侍ふ

右大臣

稲ぬきたのこの原の田ごとにかりそめ

師宮

冬の田乃いなくなりぬる氷面流るくひしの小舟せとたゆ

唐猫のいつかとなれる

權大納言

雪ふりの身のあるじ北斗寒の引き寄せ弱ちいつる松の志

題者

飛鳥井宰相大納言

新侍従三位

右衛門督

右宗尚王御詠之三首宛奏聞之下一首宛

已上筆者入本道傳受之人　新傳授之位家之二首

[illegible]

大御[illegible]代之[illegible]撰集毎のせ[illegible]天下[illegible]

[illegible]なる[illegible]紀[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やよひなる御あらそひくちおしく花ちらすなり毋
よ為世卿の歌ハ大かたまさこそおもしろき
新拾遺ハ為定卿ハ撰集あり
かたしくおもしろきハの歌ハ井上歌に見ゆ
此頃ハあはれなる集あり此ちも浦(?)まで
之集ハ清よりなりの事ハまて侍也

松原川の歌ハ新古今集の歌なり
うたの道ハさまさまになりて歌ハ心
浦なれ共其歌人のもとなる
松の心ハありて新集ハ板本となり後の世
まて侍りし跡なりて浦のありしもの
又歌ハ心なり文明の御代の

大御代のいとかしこきせちえ
いとをかしかりしをもかくなん
ちとせをかけてつるのあゆみ
明治廿年の八月

源延平